

ワークショップの流れ

- 第一回**

「桜原運動公園とインクルーシブな子ども広場について知ろう」
 令和5年10月8日(日) 10:00~12:00
 @桜原運動公園野球場会議室+現地
 【学びと現地確認による課題探し】
- 第二回**

「こんな子ども広場があったらいいな」
 令和5年10月17日(火) 19:00~21:00
 @柏原小学校 体育館
 【アイデア出しとゾーニング】
- 第三回**

「こんな子ども広場にしよう!!」
 令和5年11月21日(火) 19:00~21:00
 @柏原小学校 体育館
 【計画案のまとめ】
- 第四回**

「みんなで楽しめる子ども広場ができたよ」
 令和5年12月19日(火) 19:00~21:00
 @柏原小学校 体育館
 【最終計画案の確認】

●はじめに

桜原運動公園に市内第2号として整備予定の「インクルーシブな子ども広場」について考えるワークショップの最終回が開催されました。参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

おかげさまで全四回が終了しました。ワークショップの開催にあたってご協力いただいた皆さまにも重ねてお礼申し上げます。

●問合せ先

福岡市公園部整備課 担当：山口、中川
 〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1-4F
 ✉ koenseibi.HUPB@city.fukuoka.lg.jp
 ☎ 092-711-4410



前回までのおさらいの様子

●前回までのおさらい

これまでのワークショップでのインクルーシブな子ども広場の考え方、ゾーニングなどを簡単に振り返るとともに、第三回に事務局から提示した【計画案の「たたき台」】に対してのご意見、ご要望をもとにした課題を確認しました。

●最終案の説明と全体ディスカッション

第三回ワークショップでいただいたご意見、ご要望をもとに事務局で作成した「最終案」について、たたき台からの変更点、反映できなかった要望、検討プロセスなどの説明を行い、気になるところなどを全員でディスカッションを行いました。詳細については今後の実施設計作業で検討していくこととして、全体構成や配置形状について皆様にご確認いただきました。



ディスカッションの様子



皆さんにご確認いただきました

全体ディスカッションで挙げられた 気になるところなど

土手で子どもたちが遊んでいるので、小さい子どもとぶつかったり、物が置かれると下に転げ落ちたりした時の怪我が心配。

駐車場東側エリア

遊び場として認識されるようになると駐車場へのボールや子どもの飛出しが懸念される。

身障者駐車区画の周りの段差は解消されるのか？

ベンチは耐久性のある素材を使ってほしい。座面が盗まれないようにしてほしい。

周辺施設

トイレ2か所はどのように変わるのか。和式のブースが狭い。

駐車場トイレへの土砂の流れ込みがある。

新設の遊具エリアから駐輪場が遠い。

急な雨や暑さをしのげるものとして、駐車場との境い目の所に長いテントのような屋根を設けられないか。

海外のインクルーシブ広場では外周をフェンスで囲むのが一般的だが福岡ではマイナスイメージでとらえられている。

木を切ると土砂が流出するのではないかな？

遊具や遊び

遊具の安全領域は数年おきに代わるので余裕があったほうが良い。

生き物と触れ合う仕掛けや案内があると良い。

水遊びのミストにはどんな水を使うのか？

できた時が「インクルーシブな広場」の意図を伝えるチャンスになるので、みんなと一緒に遊ぶイベントなどがあると良い。

ハード面の整備と社会的・心理的なソフト面とを合わせて、これまで行きたいけど行けなかった人が来れる、遊べる場所になると良い。

広場全般、運営

駐車場によって分断された形となって遊び場が分散しているが、ここに来たら安心して遊べる過ごせるというものが一つあると良い。

予算や現場条件などの関係から実施設計の中で変更されるものが出てくると思うが「核心」となる、大切なところ、変えないところを整理しておくことが重要。

ここに挙げられていないその他の施設も含めて、実施設計の中で機能性、安全性、耐久性等の十分な検討を行い、だれもが利用しやすいインクルーシブな子ども広場の実現を目指します。また、整備後も持続的なインクルーシブな子ども広場となるように、運営管理を行って参ります。

●子ども広場で〇〇〇が見られたらいいな

ひとりひとりの考えを出し合い、最後にファシリテータが読み上げて共有しました。

- ・いろんな子どもが楽しく遊んでいる姿、親も安心してここにこしている姿
- ・インクルーシブの意味を理解し、お互いが多様性を尊重しながら遊ぶ
 =グラフィックなどで価値や遊び方が自然に共有され、プレイリーダーがいる
- ・インクルーシブな子ども広場を、理想的に使えている子ども達
- ・笑顔でやりとりしている子ども達、小さな子どもにやさしく語り掛け、楽しく遊んでいる姿
- ・子ども、高齢者、障がいのある人がきたら笑顔で場を共有する姿
- ・車いすの方もそうじゃない方も一緒に走り回る姿
- ・いろいろな国籍、障がいのある人々が遊ぶ姿
- ・いろんな子どもが走り回っている姿
- ・誰もが分かち合い楽しく過ごせる姿
- ・安心安全+自由
- ・みんなの笑顔が絶えない
- ・「たすけて」が安心して言える風景

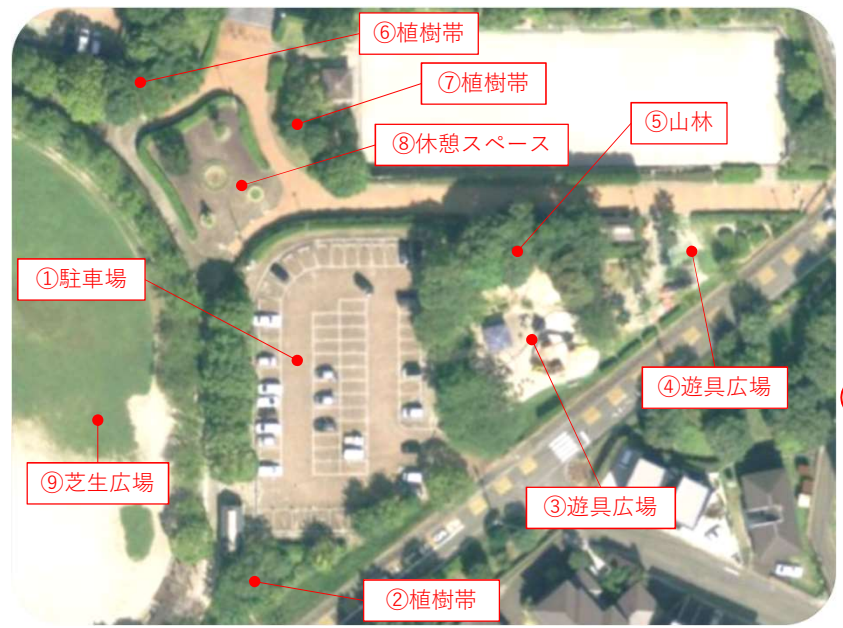
このような様子が見られるよう、誰もがお互いを理解する考えを、地域全体に浸透させていくことが大切です！



●最終案 ~将来の松原運動公園はこんな風になります~

第三回ワークショップでいただいたご意見、ご要望をもとに事務局で検討を行い、今回のワークショップにおいて提示し、参加者の皆様にご確認いただいた最終案です。

現在の松原運動公園



将来の松原運動公園

自然遊びゾーン (ひっそり)

⑥ 樹木を残しつつ、テーブルベンチを設置します。自然を感じながらくつろげる空間になります。

ひとり遊びゾーン (静)

⑧ ゴムチップ舗装仕様で、ひとり遊びができる広場になります。



交流遊びゾーン

⑨ 現状の芝生広場をそのまま利用します。

交流遊びゾーン

遊具エリア(2)

② 駐車場から直接フラットにアクセスできる砂遊び場になります。



ひとり遊びゾーン (動)

⑦ ひとり遊びができる遊具を設置します。



ひとり遊びゾーン (ややにぎやか)

④ 現在の地形を活かしながら、傾斜や高低差を楽しむ遊び場ができます。



自然遊びゾーン (にぎやか)

⑤ 樹木の手入れを行います。

交流遊びゾーン

遊具エリア(1)

③ 駐車場と北側入口からスロープでアクセスできる遊具広場になります。舗装もゴムチップ仕様となるほか、ベンチ類を多数設置し、見守りスペースが増えます。



① 身障者区画の見直しや、段差の解消を行います。

この最終案をベースに、遊具、砂場、斜面遊び等の遊びの要素や園路、サイン、フェンス等の周辺施設、植栽等について、今回いただいたご意見ご要望も取り入れつつ、市の整備指針に示す様々な配慮事項に基づいて、実際につくるための具体的な検討などの実施設計を行ってまいります。

最終案に対してのご意見・ご要望は表面へ

